

中ノ沢

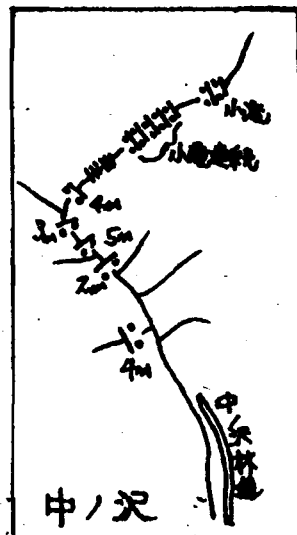
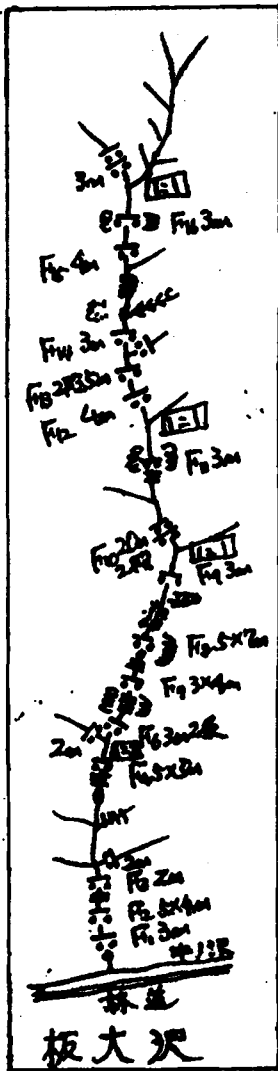
1984年7月21日

L

12:00昼食ののち、下降開始。鞍馬の跡跡から10分程で中ノ沢源頭に出る。大きなシダが生い茂り、ひよいと小人などがでてきそうな幻想的雰囲気。

15分程下降すると、小滝が続き快調。しかし、水がとても冷たく感じられる。湧水地点がいくつかあったが、そのせいだろうか。

その先、2m 2段滝を越えると、5~6mの滝が連続し、その後も小滝をまじえたナメが続いて楽しい。



12:40最初の支沢が右岸から合流。本流には2~5mの滝が続き、5本数えた支沢の位置をそのつど地図で確かめながら下降を続ける。

13:30左手に見えてきた林道に上がる。このあたり林道は荒廃しているが、昔はトロッコが入っていたそうだ。この先10分程進んだあたりからは道らしくなり、車も通れるようになった。

林道を歩いているうち、しよぼついていた雨が少しずつ強くなってきて、板大沢に入った矢戸・佐藤パーティがデボしておいてくれた車を発見したと思ったらザーとやってきた。急いで車に駆け込んで中ノ沢の下降を終了とする。

(記)

【タイム】 下降開始(12:00)→下降終了(13:30)

板大沢

1984年7月21日

L

出合からしばらく小滝が連続するが、兩岸から支流が合流するあたりからはしばらく平凡な河原歩きとなる。このあと右岸から支流を合わせた先に、二条に落ちる滝をかかえたゴルジュがあり、ここを過ぎると、再び河原となる。このあた

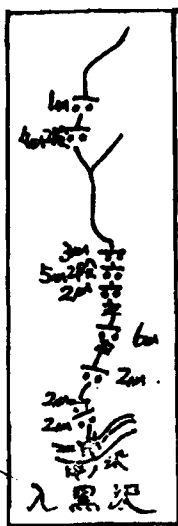
り、倒木が多い。

やがて二俣。右俣は平凡な河原。左俣には、20m二段の滝が掛かり、こちらの方がおもしろそうなので、左俣に行く。左俣はこのあと瀬頭部までナメが続く。滝は数個ある程度。いずれも簡単に越せた。

瀬頭部の二俣は、右俣のルンゼ状の急登の草付をだましながら登る。右岸には、キンコウカやオオムラサキが群棲し、美しい。15分程で尾根に出れた。そのあと尾根ぞいにヤブこぎ10分で、三角点のある櫃上山山頂。シャクナゲが群棲していた。

(記)

【タイム】 出合(6:55)→二俣(7:35)→尾根(8:00)→櫃上山(8:10)



入黒沢

1984年7月21日

L

中ノ沢林道から入黒沢出合いめざして下り、出合でワラジをつける。遊行をはじめて15分程で6mトイ状の滝。水量少なく、素に直登できる。

このあとしばらく小滝が続いたが、左にカーブしたあたりから平凡な沢となった。ゴルジュといえるようなものはないが、兩岸ともヤブが深く、暗い沢であった。

7時45分、二俣。左俣がヤブで隠されているため、右俣に行きそうになる。小さなルンゼ状になっている右俣へ2,3歩踏み出してから戻り、左俣へ入る。水量はかなり少なくなり、兩岸ともヤブ多

く、歩きにくい。

8時10分、水流なくなる。岩の下から湧水のようにになっているのを確認し、40分程ヤブをこいで、尾根に出る。

(記)

【タイム】 入黒沢出合(6:50)→二俣(7:45)→瀬頭(8:10)→尾根(8:50)

焼枯沢

1984年7月21日

L

赤倉沢に入る西・波辺パーティと一緒に中津川林道ゲート手前まで行き、車をデポして、あとはひたすら林道を歩き続ける。2時間半かかって、やっと林道から解放される。